私たちの町の遺跡　万日山古墳

■「巨大な石の古墳　万日山古墳」

　万日山古墳は、昭和36年４月、万日山東側の八合目付近で造成工事中に発見されました。直径18m、高さ４mほどの高まりもありましたが、すでに盗掘穴が開いていたそうです。阿蘇溶岩（凝灰岩）の巨大な切石を組み合わせた全長12m以上の大きな石室で、四角形に整えられた石を多用した美しい造りの古墳です。７世紀前半の古墳と考えられています。７世紀前半は聖徳太子が活躍した時代で、飛鳥時代とも呼ばれています。すでに大きな古墳はあまり造られなくなり、熊本にもほとんどありません。熊本では、この万日山古墳が最後の大型古墳とも言われています。

　６世紀前半に起きた「磐井の乱（いわいのらん）」の後、熊本（火の国）には春日部屯倉（かすがべのみやけ）が設置されたと『日本書記』に記されています。屯倉は大和朝廷による軍事的・経済的な拠点で、熊本市春日町がその遺称地と言われています。だからこそ万日山古墳が存在し、春日町一帯（二本木遺跡）が奈良時代には肥後国の中心地として栄えていったのだと考えることもできます。

◇添付写真：万日山古墳１枚